

鳥獣被害に悩む人にこそ スマート農業を！

実証地区

熊本県
山都町

竹ノ原農園ほか

熊本県立大学 環境共生学部 教授
取材対象者
松添 直隆 さん



大切に育てた農作物をイノシシやシカによって食べられてしまう鳥獣被害は、日本の中山間地域が抱える大きな悩みです。最近では食料を求め居住地にも出没していることから、安全圏においてもその対策は急務です。しかし、農家が個別に電気柵を設置したり、ワナを仕掛けたりするには、費用的にも労力的にも負担が大きく、特にワナを山中に仕掛ける行為は、危険を伴います。加えて、ワナを頻繁に見回る必要があり、かかっていないときはムダ足に、かかっていても捕獲から数日経過していれば、ジビエ料理など商品として使用・販売することができません。

こうした課題を解決すべく、私たちは、センシング技術を活用した鳥獣対策システムについて実証を行っています。仕掛けたワナにかかると、登録したメールアドレスに即時に通知されるため、見回る必要もなく、空振りなく捕獲ができました。イノシシやシカの命をムダにすることなく、商品として販売することもできます。また、データを蓄積することで動物の生態研究に役立てたり、行動範囲を予測したりといったことも可能です。鳥獣被害は生産者の意欲を奪う厄介なもの。生産者が安心して農業に従事できるよう、官民学が連携し、実用化を目指す方針です。

全編はコチラ：https://agri.mynavi.jp/smart_agri_project/